

会員異動・入会案内他

自動振替による会費納入のお願い

日本藻類学会会員各位

日本藻類学会・庶務幹事（会員担当） 神谷充伸

当学会はこれまで、会費納入方法につきましては郵便振替による振込みのみとなっており、毎年ご不便をおかけしてまいりましたが、2006年度より金融機関（銀行、信用金庫または郵便局の預貯金口座）からの自動振替が可能となりました。会員管理事務の効率化と経費削減につながりますので、ぜひ自動振替による会費納入をご検討いただきますよう宜しくお願い申し上げます。なお、事務手続き上、外国会員につきましては従来通りクレジットカードによる、また学生会員につきましては郵便振替による振込みのみとさせていただきますので、悪しからずご了承ください。ご不明の点等がありましたら、下記事務局までご連絡いただきますよう、よろしく宜しくお願い申し上げます。

【金融機関自動振替をご希望の方（普通会员・団体会員・賛助会員対象）】

和文誌「藻類」53巻2号に同封しました預金口座振替依頼書に、必要事項をお書き込みの上（銀行、信用金庫の場合は2ヶ所、郵便局の場合は1ヶ所忘れず捺印して下さい。依頼書をお持ちでない方は下記の連絡先までご請求願います。自動振替の引き落とし手数料は150円（税別）となっておりますが、自動振替の促進のため、新規申し込みの年次は学会の負担とさせていただきます。なお、2007年度の自動振替はすでに締め切っておりますので、2008年度からの適用となります。2006年度およびそれ以前の会費未納分につきましても、下記事務局までご連絡いただければ自動振替による振込が可能です。

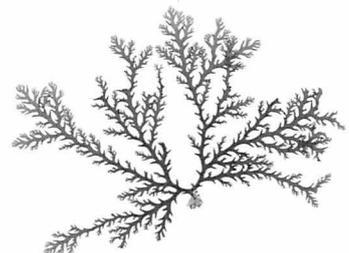
※ご注意：残額不足などの理由により、振替指定日にご指定の口座から振替できなかった場合は、後日郵便振替票をお送りしますので、お近くの郵便局で振込みをお願いいたします（振込み手数料をご負担下さい）。

【郵便局での振込みをご希望の方】

自動振替をお申し込みいただいた会員以外には、12月上旬に郵便振替票をお送りしますので、お近くの郵便局で振込みをお願いいたします（団体会員・賛助会員は銀行振込みでも結構です）。従来通り、振込み手数料をご負担下さい。

【お申込み・お問い合わせ先】

〒917-0003 福井県小浜市学園町1-1 福井県立大学 神谷充伸 宛
Tel & Fax : 0770-52-9606 E-mail: jsp@wwwsoc.nii.ac.jp



日本藻類学会の入会申込みについて

日本藻類学会に入会を希望される方は、学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsp/Welcome.htm>) の「入会案内」から入会申込書 (Microsoft Word ファイル) をダウンロードし、必要事項を記入の上、電子メールに添付して会員事務担当 (神谷充伸 jsp@wwwsoc.nii.ac.jp) まで送付してください。記入の際は同ホームページにアップしてあります記入例をご参照ください。ホームページをご覧いただけない方は、以下の項目をご記入の上、コピーして会員事務担当に郵送してください。該当する会員種別の年会費 (普通会员 8,000 円, 学生会員 5,000 円) は郵便振替でお支払いいただきますようお願いいたします。なお、普通会员に限り、2 年目以降は会費の自動振替がご利用できますので、ご希望の方は会員事務担当までご連絡ください。

- 入会申込書送付先 jsp@wwwsoc.nii.ac.jp
- 会 費 払 込 先 郵便振替 口座番号：01640-8-2747
 加入者名：日本藻類学会

申し込み年月日： 年 月 日
 入会希望年度 (新年度は 1 月から)： 年度
 氏名 (日本語)：
 氏名 (英語)：
 所属機関名 (日本語)：
 所属機関名 (英語)：
 所属住所 (日本語)： 〒
 所属住所 (英語)：
 所属電話：
 所属 Fax：
 所属 E-mail：

- 自宅に会誌送付を希望される方は、以下の項目をご記入ください。

自宅住所 (日本語)： 〒
 自宅住所 (英語)：
 自宅電話：
 自宅 Fax：
 自宅 E-mail：

- 以下の項目に関して、該当しない選択肢を消去してください。

【会員の種類】 普通会员 (8,000 円) 学生会員 (5,000 円)

※学生会員の場合は、郵便振替用紙の通信欄に指導教官の署名をお願いします。

【会誌の送り先】 所属先 自宅

- ・会誌および名簿に公開を希望しない項目がありましたら、項目の先頭に「x」をご記入ください。
- ・数字は半角で入力してください。

編集後記

今号こそは古の企画を復活させて誌面充実を果たさねばと思いつつ、諸々の締切りに追まわられた挙げ句、時間切れ試合終了、否、編集終了となってしまう、反省しきりです。そんななか、前号の「遊藻子」欄にご登場いただいた新村巖先生から温かい励ましのお葉書をいただきました。山口愛果さんの参加記を 1 頁にまとめるための苦肉の策のコラムでしたが、無断掲載にもかかわらず「45 年の会員期間中でスター? なみのデビュー記事にすっかり感激しました」との御言葉に恐縮するとともに、次号への意欲がわらわらと湧いてまいりました。(編)